資料 4

第１期鳴門市スポーツ推進計画
の概略について

※以降、第１期 鳴門市スポーツ推進計画（概要版）より抜粋

スポーツは、楽しさや喜びをもたらし、青少年の健全育成や地域社会の再生、心身の健康の保持増進、社会・経済の活力の創造等の多面にわたる役割を担っています。

本市では、これまで以上にスポーツ推進に関する取組を進めるため、「スポーツうずまくまちなると」を基本理念と定めた「鳴門市スポーツ推進計画」を新たに策定し、市民の皆さんとの協働と、国、県スポーツ団体をはじめとする関係者との連携によって、その基本理念の実現を図ります。

計画期間：平成 27 年（2015 年）度から平成 36 年（2024 年）度までの 10 年間

■スポーツ推進の意義

①スポーツは、次代を担う子ども・青少年の体力を向上させるとともに、他者を尊重し協同する精神、公正さと規律を尊ぶ態度や克己心を培い、実践的な思考力や判断力を育む等人格の形成に資するものです。

②スポーツは、年齢、性別、障がいの有無等を問わず心身の健康の保持増進、精神的な充足感の獲得、自律心その他の精神の涵養等にも重要な役割を果たすものであることから、健康で活力に満ちた社会の実現に不可欠なものであるとともに、人と人との交流及び地域と地域との交流を促進し、地域の一体感や活力を醸成するものであり、人間関係の希薄化等の地域課題の解決に寄与する可能性を有するものです。

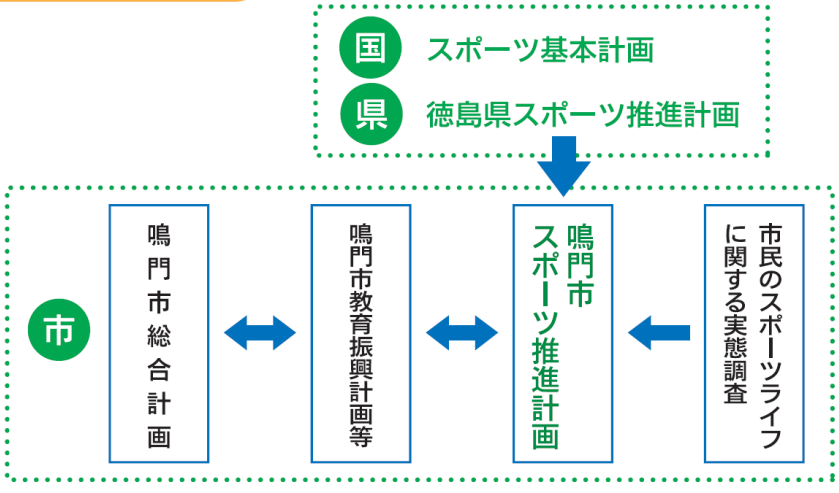
③スポーツは、トップアスリートが不断の努力により人間の可能性の極限を追求し、競技に取り組む姿は、多くの人々に誇りや喜び、夢や感動をもたらします。また、トップアスリートの活躍は、次世代のスポーツ選手の育成につながり、地域の競技スポーツの発展に寄与するものです。

■計画の期間

平成 27 年（2015 年）度から平成 36 年（2024 年）度までの 10 年計画とし、平成 32 年（2020 年）度までの 6 年間を前期計画期間、平成 33 年（2021 年）度からの 4 年間を後期計画期間とします。また、前期計画の期間中の平成 29 年（2017 年）度に、計画の進捗状況やスポーツをめぐる環境を踏まえて、計画の検証を行います。

平成27年度(2015)	28年度(2016)	29年度(2017)	30年度(2018)	31年度(2019)	32年度(2020)	33年度(2021)	34年度(2022)	35年度(2023)	36年度(2024)
前期計画期間　6年						後期計画期間　4年			
		（検証）			（見直し）				

■計画の位置づけのイメージ図



基本理念：スポーツうずまくまち　なると

市民の皆さんや体育・スポーツ関係団体などの皆さんと共に、基本理念の実現を目指します。

基本目標

計画の基本理念を実現するために、今後のスポーツ推進の主要な目標を次のとおり掲げて、具体的な施策を展開します。

1.子ども・青少年の体育・スポーツ機会の充実

学校における体育・スポーツ活動や地域のスポーツ活動の支援を行い、様々な種目に触れる機会を確保し、子ども・青少年の健全育成を目指します。

2.ライフステージに応じたスポーツ活動の推進

生涯にわたりライフステージに応じたスポーツ活動が行えるように、スポーツ機会の創出、活動の支援等を通じて、生涯スポーツの推進を図ります。

3.市民が主体的に参画する地域のスポーツ環境の整備

体育協会やスポーツ推進委員会、総合型地域スポーツクラブ等のスポーツ関連組織との連携や市民との協働により、地域のスポーツ環境の整備に取り組みます。

スポーツ推進のための施策

施策(1)　子ども・青少年のスポーツ活動の推進

①スポーツ活動機会の充実
②スポーツ少年団の活動支援
③スポーツ大会等の開催(子ども・青少年)
④スポーツボランティアとの連携

施策(2)　学齢期の体育活動機会の充実

①小中学生の体育活動への支援
②四国大会及び全国大会等出場支援
③スポーツ指導者の活用
④顕彰制度の推進(子ども・青少年)

施策(1)　スポーツの参加機会の拡充

①日常的にスポーツに参加することができる機会の提供
②スポーツ大会等の開催(成人)
③学校体育施設の活用
④スポーツボランティアの拡充
⑤観るスポーツの機会の創出
⑥スポーツ情報の発信

施策(2)　高齢者のスポーツ活動の支援

①介護予防事業との連携
②高齢者スポーツの支援

施策(3)　障がい者のスポーツ活動の支援

①障がい者スポーツの支援
②障がい者スポーツ・レクリエーション大会の支援

施策(4)　競技スポーツの支援

①学校・社会体育施設の優先使用
②全国大会及び世界大会等出場支援
③顕彰制度の推進(成人)

施策(1)　スポーツ関連組織への支援

①体育協会への支援
②スポーツ推進委員会への支援
③総合型地域スポーツクラブへの支援

施策(2)　スポーツ活動における安全の確保

①スポーツ安全講習会等の開催

施策(2)　スポーツ施設の改修・整備の検討

①スポーツ施設の改修・整備の検討

計画の役割

役割 ①

市民に対して、計画の基本理念、基本目標等を明示することでスポーツへの関心を高め、スポーツ活動へ積極的な参加を促進するとともに、スポーツを通じてすべての市民が幸福で豊かな生活を営むことができる社会の創出を協働して目指す計画とします。

役割 ②

体育・スポーツ関係団体に対して、計画の基本理念、基本目標等を明示することで本市のスポーツ施策に対する理解を深めてもらい、スポーツの推進のための主体的な取組や行政との連携を通じて、市民の心身の健康の保持増進等に努めることを目指す計画とします。

役割 ③

国や県に対して、計画の基本理念、基本目標等を明示することで、本市のスポーツ施策に対する理解や事業の推進に対して積極的な支援を求める計画とします。

スポーツライフに関する実態調査結果

1）調査目的

市民のスポーツ実施状況やニーズを把握するとともに、前回平成24年度の調査結果や全国の実施状況などとの比較を行い、本市が実施する施策や事業の在り方を検討するために実施しました。

2）調査期間

令和2年6月1日～6月30日

3）調査対象及び回収結果

Ⅰ．鳴門市の青少年のスポーツライフに関する実態調査

調査対象：市内公立校在籍の小学校4年生から高校3年生の児童生徒各学年100人　合計900人
回収状況：871人／男性432人・女性431人・性別未回答8人（回収率96.8%）

参考資料

・笹川スポーツ財団　4～11歳／12～21歳のスポーツライフに関する調査
（調査時期　令和元年6月29日～7月20日／標本数1,748 ※小学校4年生～高校3年生）

Ⅱ．鳴門市民のスポーツライフに関する実態調査

調査対象：20歳代～70歳代の各年代200人　合計1,200人
回収状況：346人／男性151人・女性190人・性別未回答5人（回収率28.8%）

	n			
	男性	女性	性別未回答	合計
20歳代	14	18	1	33
30歳代	21	22		43
40歳代	24	37		61
50歳代	24	33		57
60歳代	28	41		69
70歳代	39	39		78
不　明	1		4	5
合　計	151	190	5	346

	%		
	男性	女性	合計
20歳代	9.3%	9.5%	9.5%
30歳代	13.9%	11.6%	12.4%
40歳代	15.9%	19.5%	17.6%
50歳代	15.9%	17.4%	16.5%
60歳代	18.5%	21.6%	19.9%
70歳代	25.8%	20.5%	22.5%
不　明	0.7%	0%	1.4%
合　計	100.0%	100.0%	100.0%

参考資料

・笹川スポーツ財団　スポーツライフに関する調査
（調査時期　平成30年7月6日～8月10日／標本数3,000）
・スポーツ庁　スポーツの実施状況等に関する世論調査
（調査時期　令和元年11月22日～12月13日／標本数19,510 ※20歳以上）

4）調査項目

Ⅰ．鳴門市の青少年のスポーツライフに関する実態調査

① 過去1年間に行った運動・スポーツ
　実施した種目／回数の多い主な５種目の実施頻度・時間
② 今後行いたい運動・スポーツ
③ 習いごとの実施状況
④ 学校の運動部やサークル、スポーツクラブへの加入状況
⑤ スポーツボランティア
　過去1年間の活動の有無／活動内容／今後の意向

Ⅱ．鳴門市民のスポーツライフに関する実態調査

① 過去1年間に行った運動・スポーツ
　実施した種目／実施した日数
② 今後行いたい運動・スポーツ
③ スポーツクラブ・同好会・チーム
　加入状況／今後の意向
④ 総合型地域スポーツクラブの認知度
⑤ スポーツボランティア
　過去1年間の活動の有無／今後の意向
⑥ ゴールデン・スポーツイヤーズ
　ラグビーワールドカップ2019、東京2020オリンピック・パラリンピック事前キャンプの認知度／ワールドマスターズゲームズ関西2021の認知度・参加の意向／スポーツレガシーへの関心
⑦ スポーツを通じた地域活性化
　市の取り組みの認知度／発信すべき市の魅力
⑧ スポーツ施設の整備
　市のスポーツ施設の利用状況／新しいスポーツ施設の必要性・望む役割・必要な設備／新しいスポーツ施設が必要ではない理由

5）調査方法

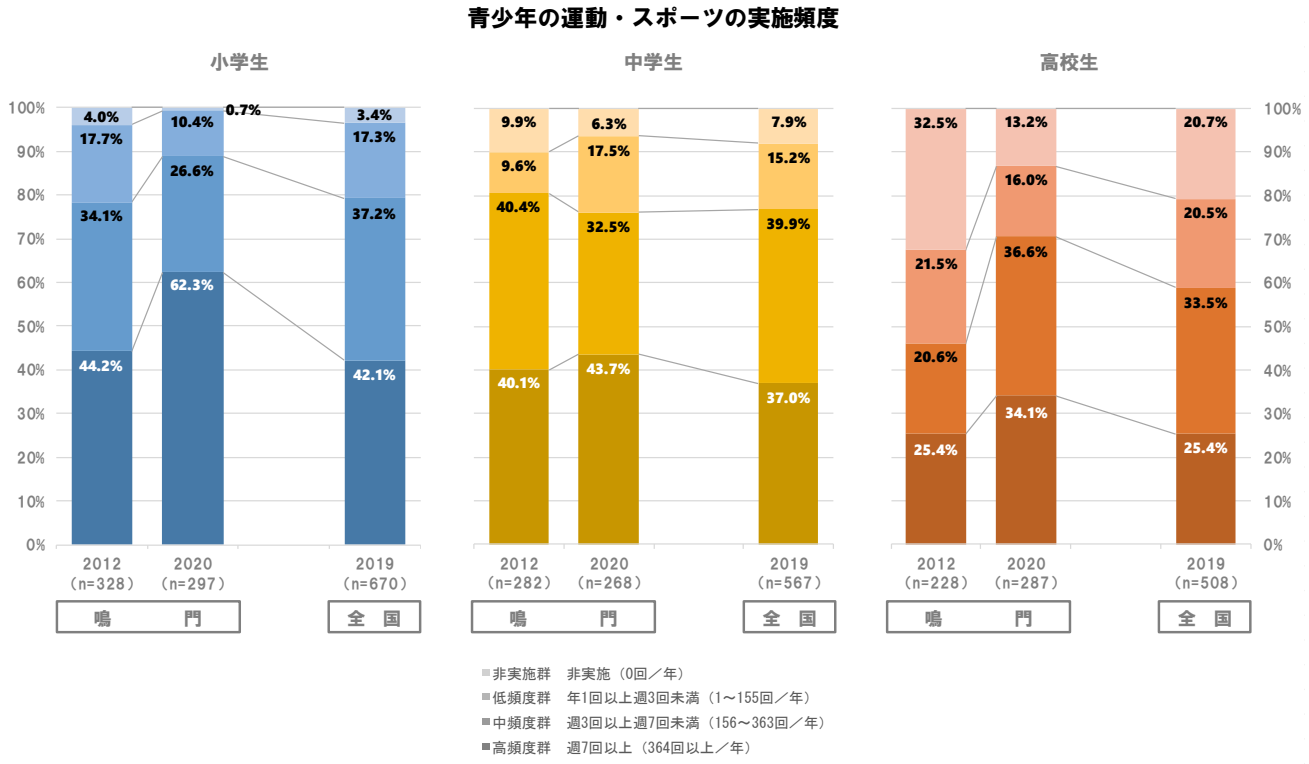
質問紙調査

６）調査結果

Ⅰ．鳴門市の青少年のスポーツライフに関する実態調査

① 過去１年間に行った運動・スポーツ

過去１年間に行った運動・スポーツの実施頻度を４つに分類して比較しています。
本市の前回調査の結果と比較すると、高頻度群の割合が高くなるとともに非実施群の割合が低くなっています。全国調査の結果と比較しても、本市の青少年の運動頻度は高い傾向にあることが伺えます。



過去１年間に行った運動・スポーツの種目をみると、小学生・中学生・高校生いずれも全国調査と同様の結果となっています。その中でも特に本市で実施割合が高い種目は「ウォーキング」となっており、反対に実施割合が低い種目は小学生・中学生での「水泳」が挙げられます。前回調査においてもみられたこの傾向は、市内に屋内温水プールなどの施設がないことが影響していると考えられます。

過去１年間に行った運動・スポーツ種目

■2020 鳴門市の小学校 4～6 年生（n=300／複数回答可）

順位	種目	割合	n
1	おにごっこ	81.0%	243
2	ぶらんこ	74.0%	222
3	なわとび（長なわとびを含む）	70.7%	212
4	ドッジボール	59.0%	177
5	かくれんぼ	57.3%	172
6	鉄棒	53.7%	161
7	自転車あそび	52.7%	158
8	かけっこ	51.0%	153
9	ウォーキング	40.7%	122
10	サッカー	39.7%	119

■2019 全国の小学校 4～6 年生（n=670／複数回答可）

順位	種目	割合	n
1	おにごっこ	64.2%	430
2	ドッジボール	51.5%	345
3	水泳（スイミング）	46.0%	308
4	なわとび（長なわとびを含む）	41.5%	278
5	サッカー	38.7%	259
6	ぶらんこ	38.2%	256
7	自転車あそび	37.8%	253
8	かくれんぼ	33.0%	221
9	鉄棒	32.8%	220
10	かけっこ	29.6%	198

■2020 鳴門市の中学生（n=271／複数回答可）

順位	種目	割合	n
1	おにごっこ	46.9%	127
2	なわとび（長なわとびを含む）	40.6%	110
3	ジョギング・ランニング	38.4%	104
4	ぶらんこ	34.7%	94
5	ウォーキング	34.3%	93
6	筋力トレーニング	31.4%	85
7	サッカー	31.0%	84
8	かくれんぼ	28.0%	76
9	バスケットボール	25.5%	69
10	キャッチボール	24.0%	65

■2019 全国の中学生（n=567／複数回答可）

順位	種目	割合	n
1	サッカー	31.4%	178
2	おにごっこ	31.2%	177
3	バスケットボール	26.8%	152
4	卓球	23.1%	131
5	ジョギング・ランニング	22.9%	130
6	水泳（スイミング）	22.6%	128
7	バドミントン	22.2%	126
8	なわとび（長なわとびを含む）	20.3%	115
9	ドッジボール	18.2%	103
10	ぶらんこ	18.0%	102

■2020 鳴門市の高校生（n=300／複数回答可）

順位	種目	割合	n
1	ウォーキング	37.7%	113
2	筋力トレーニング	28.3%	85
3	ジョギング・ランニング	27.3%	82
4	なわとび（長なわとびを含む）	25.3%	76
5	バドミントン	25.0%	75
6	サッカー	23.0%	69
7	バスケットボール	20.7%	62
8	おにごっこ	19.7%	59
9	卓球	18.0%	54
10	バレーボール	16.7%	50

■2019 全国の高校生（n=508／複数回答可）

順位	種目	割合	n
1	サッカー	20.9%	106
2	バスケットボール	20.7%	105
3	ジョギング・ランニング	20.5%	104
4	バドミントン	18.9%	96
5	バレーボール	15.7%	80
6	卓球	15.2%	77
7	筋力トレーニング	14.6%	74
8	ウォーキング	11.4%	58
9	おにごっこ	11.0%	56
10	なわとび（長なわとびを含む）	10.6%	54

② 今後行いたい運動・スポーツ

今後も続けたい、または新たに始めたい運動・スポーツの種目については、過去１年間に行った運動・スポーツに比べると球技が上位を占める結果となっています。

今後行いたい運動・スポーツ種目

■2020 鳴門市の小学校 4～6 年生（n=223／複数回答可）

順位	種目	割合	n
1	サッカー	19.3%	43
2	ドッジボール	15.7%	35
3	バスケットボール	14.8%	33
4	釣り	13.9%	31
5	水泳（スイミング）	13.0%	29
6	バドミントン	10.8%	24
7	卓球	10.3%	23
8	おにごっこ	9.0%	20
9	野球	8.5%	19
10	スケートボード（スケボー）	7.2%	16
	ウォーキング	7.2%	16

■2020 鳴門市の中学生（n=180／複数回答可）

順位	種目	割合	n
1	サッカー	19.4%	35
2	バスケットボール	12.8%	23
3	筋力トレーニング	12.2%	22
4	卓球	10.6%	19
	バドミントン	10.6%	19
6	釣り	10.0%	18
7	ソフトテニス（軟式）	8.9%	16
	ジョギング・ランニング	8.9%	16
9	野球	7.8%	14
	陸上競技	7.8%	14
	弓道	7.8%	14

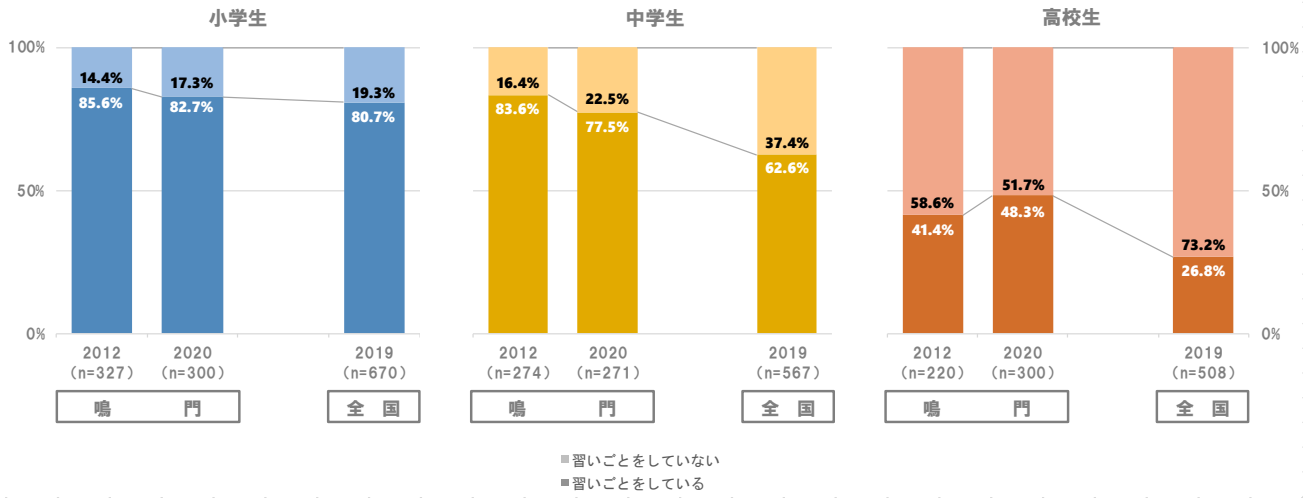
■2020 鳴門市の高校生（n=168／複数回答可）

順位	種目	割合	n
1	サッカー	17.9%	30
2	バドミントン	14.9%	25
3	バスケットボール	14.3%	24
4	筋力トレーニング	13.7%	23
5	バレーボール	9.5%	16
	ジョギング・ランニング	9.5%	16
7	スケートボード（スケボー）	7.7%	13
	ウォーキング	7.7%	13
9	野球	6.5%	11
10	卓球	6.0%	10

③ 習いごと

次ページの運動・スポーツを含む習いごとの実施状況について、本市の前回調査の結果に比べて小学生・中学生の実施割合が低下した半面、高校生の実施割合が高くなっています。いずれの年代においても全国調査の結果より高い傾向にあります。

習いごとの実施割合



習いごとの実施状況

■2020 鳴門市の小学校 4～6 年生（n=300／複数回答可）

順位	内容	割合	n
1	学習塾	35.0%	105
2	ピアノ	14.0%	42
3	英会話	13.7%	41
4	習字	12.0%	36
5	水泳（スイミング）	11.7%	35
6	サッカー	10.0%	30
7	バスケットボール	6.7%	20
8	野球	5.7%	17
9	空手	4.7%	14
	陸上競技	4.7%	14

■2019 全国の小学校 4～6 年生（n=670／複数回答可）

順位	内容	割合	n
1	学習塾	26.4%	177
2	水泳（スイミング）	18.7%	125
3	ピアノ	14.8%	99
4	習字	14.2%	95
5	英会話	12.4%	83
6	サッカー	11.6%	78
7	そろばん	5.7%	38
8	ダンス（ジャズダンス、ヒップホップダンスなど）	5.4%	36
9	野球	5.2%	35
10	テニス	4.9%	33

■2020 鳴門市の中学生（n=271／複数回答可）

順位	内容	割合	n
1	学習塾	49.1%	133
2	サッカー	9.6%	26
3	英会話	8.5%	23
4	習字	7.0%	19
5	陸上競技	5.9%	16
6	ピアノ	5.2%	14
7	卓球	4.1%	11
8	バスケットボール	3.7%	10
9	家庭教師	3.3%	9
10	野球	3.0%	8

■2019 全国の中学生（n=567／複数回答可）

順位	内容	割合	n
1	学習塾	37.6%	213
2	ピアノ	7.4%	42
3	習字	5.5%	31
4	英会話	5.1%	29
5	サッカー	3.2%	18
6	野球	2.8%	16
7	水泳（スイミング）	2.5%	14
8	ダンス（ジャズダンス、ヒップホップダンスなど）	2.1%	12
9	テニス	1.9%	11
10	空手	1.4%	8

■2020 鳴門市の高校生（n=300／複数回答可）

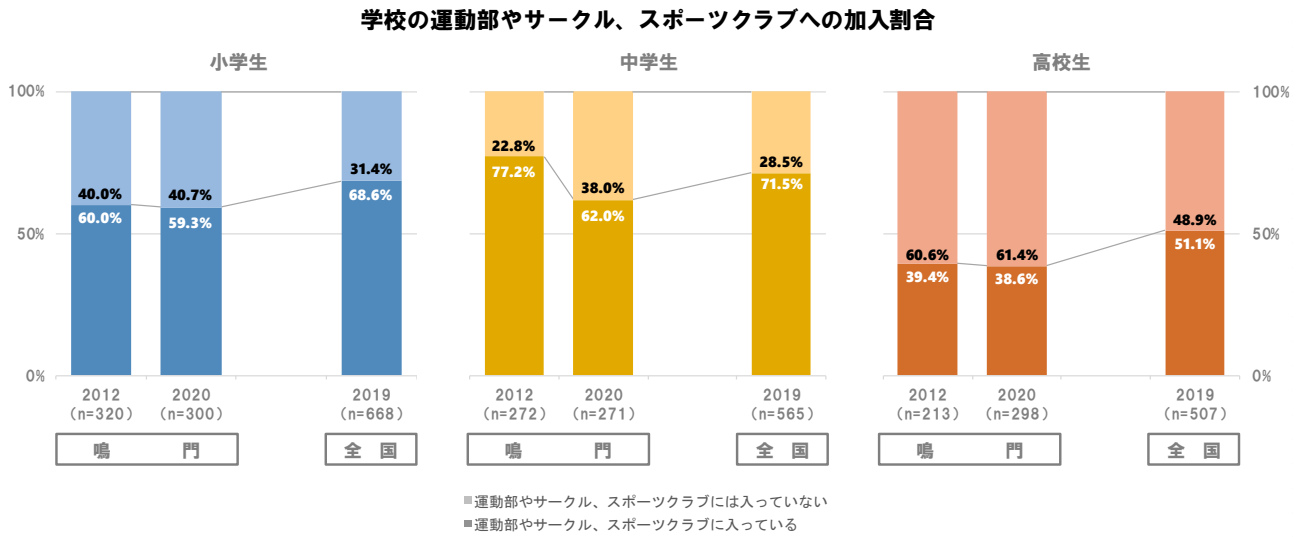
順位	内容	割合	n
1	学習塾	23.3%	70
2	サッカー	4.7%	14
3	英会話	3.3%	10
3	ピアノ	3.3%	10
5	習字	3.0%	9
6	野球	2.7%	8
7	卓球	2.3%	7
7	バスケットボール	2.3%	7
9	家庭教師	1.3%	4
	空手	1.3%	4
	ダンス（ジャズダンス、ヒップホップダンスなど）	1.3%	4

■2019 全国の高校生（n=508／複数回答可）

順位	内容	割合	n
1	学習塾	14.4%	73
2	ピアノ	3.0%	15
3	ダンス（ジャズダンス、ヒップホップダンスなど）	2.2%	11
4	習字	2.0%	10
5	英会話	1.8%	9
6	テニス	1.2%	6
7	空手	0.8%	4
8	卓球	0.6%	3
	水泳（スイミング）	0.6%	3
10	絵画	0.4%	2
	サッカー　他4項目	0.4%	2

④ 学校の運動部やサークル、スポーツクラブ

学校の運動部やサークル、スポーツクラブへの加入割合について、小学生・高校生は横ばい、中学生は低下しています。いずれも全国調査の結果より低くなっています。

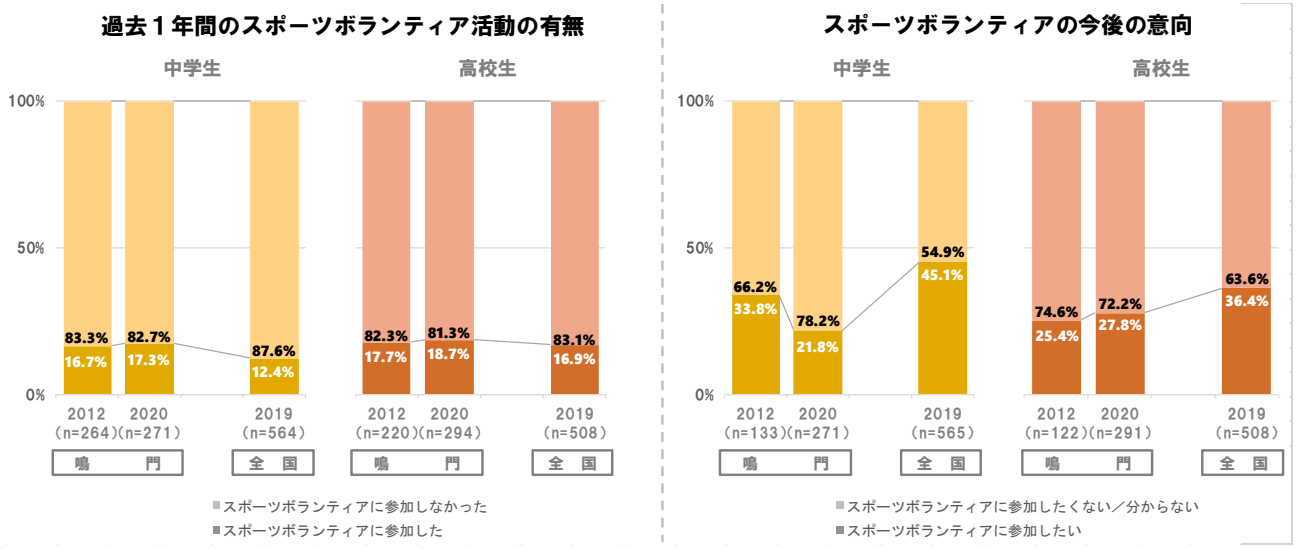


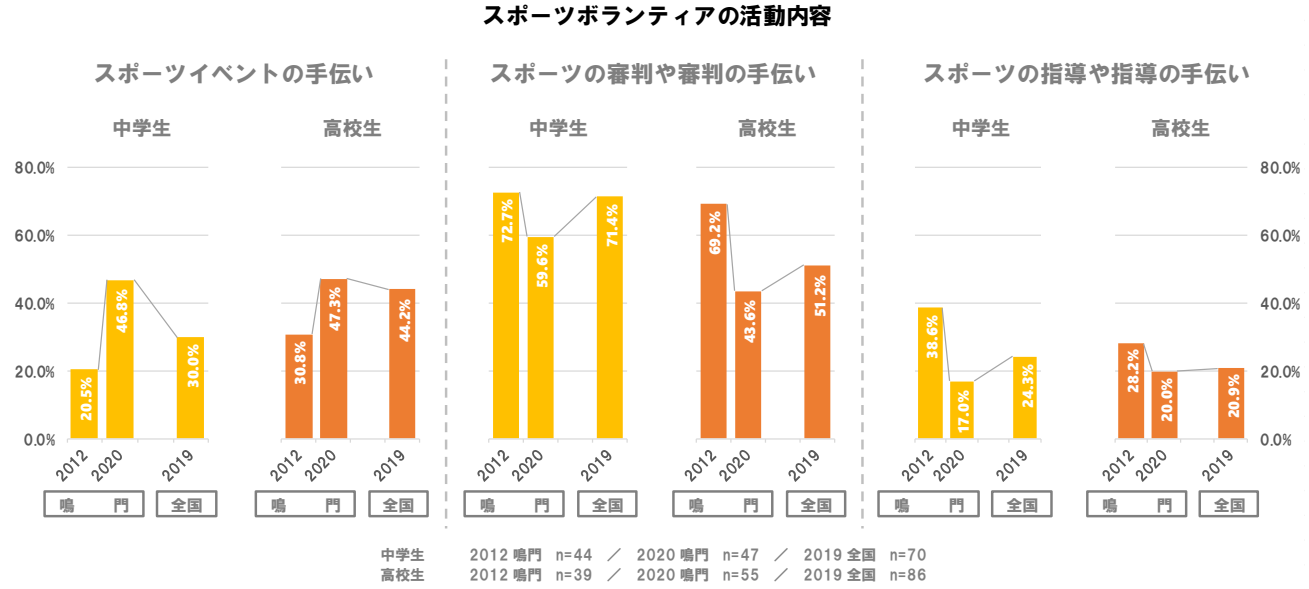
⑤ スポーツボランティア

スポーツ活動の手伝いや世話など、スポーツを支えるボランティア活動の実施割合をみると、全国調査の結果と比べて大きな差はありません。

スポーツボランティアの今後の意向をみると、全国調査と比べて低い傾向にあり、特に中学生において顕著です。

活動内容では、スポーツの審判や指導、及びそれらの手伝いの割合が減少し、スポーツイベントの手伝いの割合が増加しています。

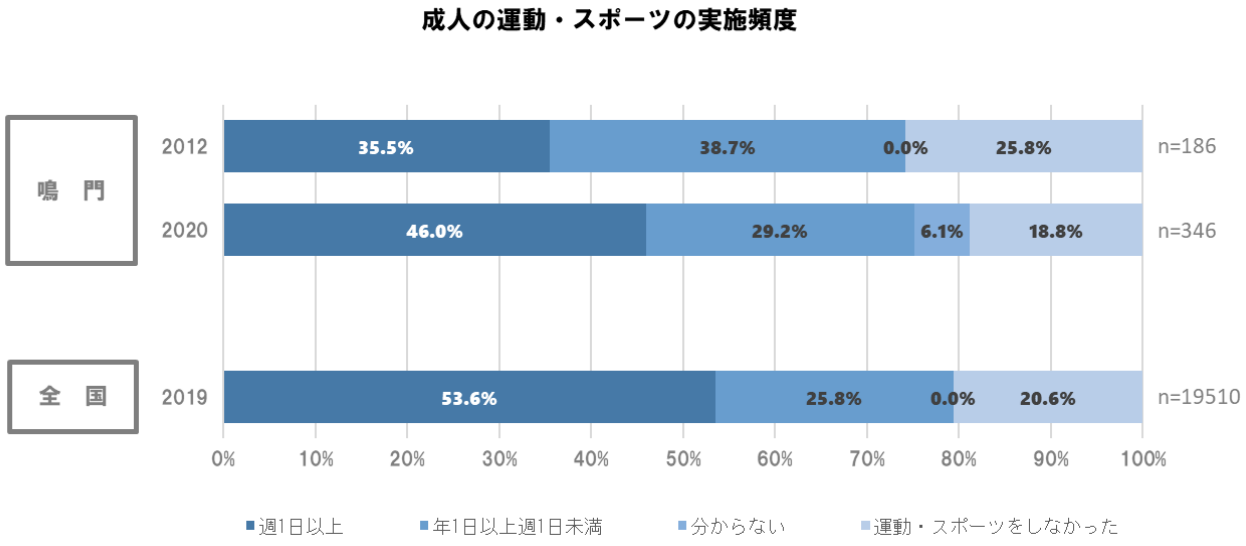




Ⅱ．鳴門市民のスポーツライフに関する実態調査

① 過去１年間に行った運動・スポーツ

本市の成人の過去１年間に行った運動･スポーツの実施頻度については､｢週１回以上｣の割合が前回調査(35.5%)に比べて大きく改善していますが（46.0%)、スポーツ庁の実施した全国調査「スポーツの実施状況等に関する世論調査」の結果（53.6%）や国及び本市の目標（65%程度）には達していません。



過去 1 年間に行った運動・スポーツの種目をみると、笹川スポーツ財団の行った全国調査とほぼ同様の結果となっており、歩行系（散歩、ウォーキング、ジョギングなど）や体操系（軽い体操、筋力トレーニングなど）が上位を占めています。その中でも、本市の調査結果の特徴としては、「散歩（ぶらぶら歩き）」や「ウォーキング」の実施割合が全国調査の結果に比べて高いことが挙げられます。

過去 1 年間に行った運動・スポーツ種目

■2020 鳴門市の成人男性（n=150／複数回答可）

順位	種目	割合	n
1	散歩（ぶらぶら歩き）	45.3%	68
2	ウォーキング	34.0%	51
3	筋力トレーニング	26.0%	39
4	体操（軽い体操・ラジオ体操など）	21.3%	32
4	釣り	21.3%	32
6	ジョギング・ランニング	16.0%	24
7	サイクリング	13.3%	20
8	ゴルフ（コース）	12.0%	18
9	ボウリング	10.7%	16
10	ゴルフ（練習場）	8.7%	13
	なわとび	8.7%	13

■2018 全国の成人男性（n=1491／複数回答可）

順位	種目	割合	n
1	散歩（ぶらぶら歩き）	26.0%	387
2	ウォーキング	24.1%	360
3	筋力トレーニング	17.4%	259
4	ゴルフ（コース）	14.8%	221
5	体操（軽い体操・ラジオ体操など）	14.0%	209
6	ジョギング・ランニング	13.3%	199
7	ゴルフ（練習場）	11.7%	174
8	釣り	11.6%	173
9	ボウリング	11.1%	165
10	キャッチボール	8.1%	121

■2020 鳴門市の成人女性（n=190／複数回答可）

順位	種目	割合	n
1	散歩（ぶらぶら歩き）	46.8%	89
2	ウォーキング	41.6%	79
3	体操（軽い体操・ラジオ体操など）	35.8%	68
4	筋力トレーニング	20.5%	39
5	ジョギング・ランニング	10.5%	20
6	ヨーガ	10.0%	19
7	なわとび	8.9%	17
8	水泳	7.9%	15
9	卓球	6.8%	13
10	キャッチボール	6.3%	12
	ボウリング	6.3%	12

■2018 全国の成人女性（n=1509／複数回答可）

順位	種目	割合	n
1	散歩（ぶらぶら歩き）	35.8%	540
2	ウォーキング	26.6%	401
3	体操（軽い体操・ラジオ体操など）	25.0%	378
4	筋力トレーニング	13.1%	198
5	ヨーガ	9.7%	147
6	ボウリング	8.7%	132
7	卓球	6.6%	100
8	バドミントン	6.4%	97
9	水泳	6.1%	92
10	なわとび	6.0%	91

② 今後行いたい運動・スポーツ

現在行っているものを含めた、今後行いたい運動・スポーツの種目を見ると、前ページの過去１年間に行った運動・スポーツの種目のように、全国調査と同様の結果となっています。

今後行いたい運動・スポーツ種目

■2020 鳴門市の成人男性（n=151／複数回答可）

順位	種目	割合	n
1	散歩（ぶらぶら歩き）	36.4%	55
2	ウォーキング	29.8%	45
3	筋力トレーニング	27.8%	42
4	釣り	21.2%	32
5	体操（軽い体操・ラジオ体操など）	19.9%	30
6	ジョギング・ランニング	14.6%	22
7	登山	13.2%	20
8	ボウリング	12.6%	19
9	ゴルフ（コース）	11.9%	18
10	サイクリング	11.3%	17

■2018 全国の成人男性（n=1491／複数回答可）

順位	種目	割合	n
1	ウォーキング	21.0%	313
2	筋力トレーニング	20.7%	309
3	散歩（ぶらぶら歩き）	17.6%	262
4	釣り	17.1%	255
5	ゴルフ（コース）	15.3%	228
6	ジョギング・ランニング	12.9%	192
7	キャンプ	11.8%	176
8	サイクリング	11.2%	167
9	ゴルフ（練習場）	10.7%	159
10	水泳	10.5%	156

■2020 鳴門市の成人女性（n=190／複数回答可）

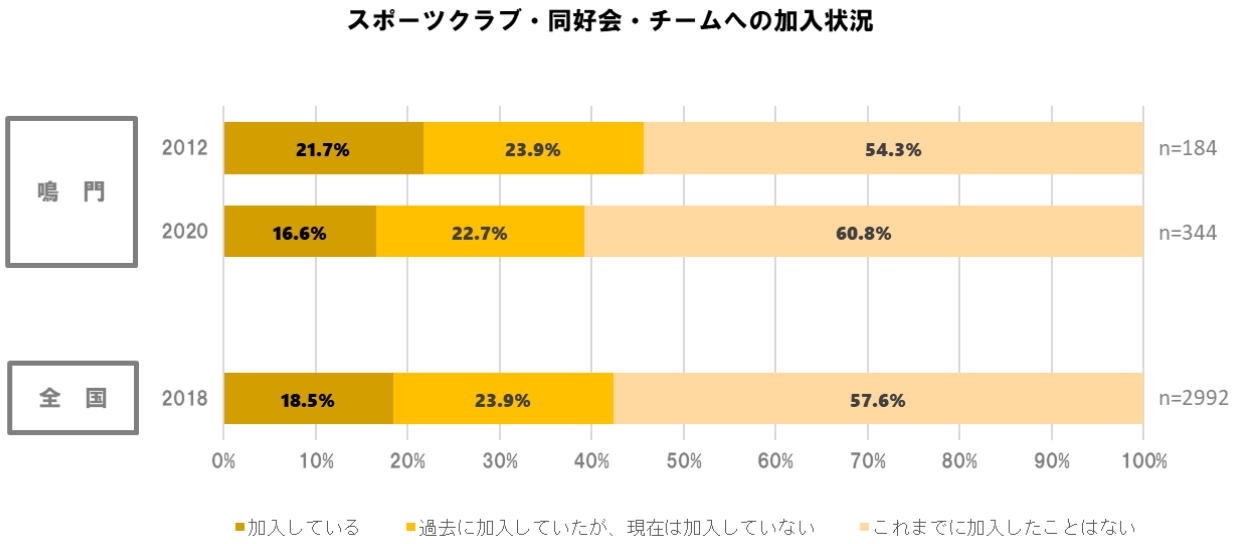
順位	種目	割合	n
1	ウォーキング	41.6%	79
2	散歩（ぶらぶら歩き）	36.3%	69
3	体操（軽い体操・ラジオ体操など）	33.7%	64
4	筋力トレーニング	25.8%	49
5	ヨーガ	18.4%	35
6	卓球	15.8%	30
7	ジョギング・ランニング	13.7%	26
7	水泳	13.7%	26
9	バドミントン	11.6%	22
10	なわとび	9.5%	18

■2018 全国の成人女性（n=1509／複数回答可）

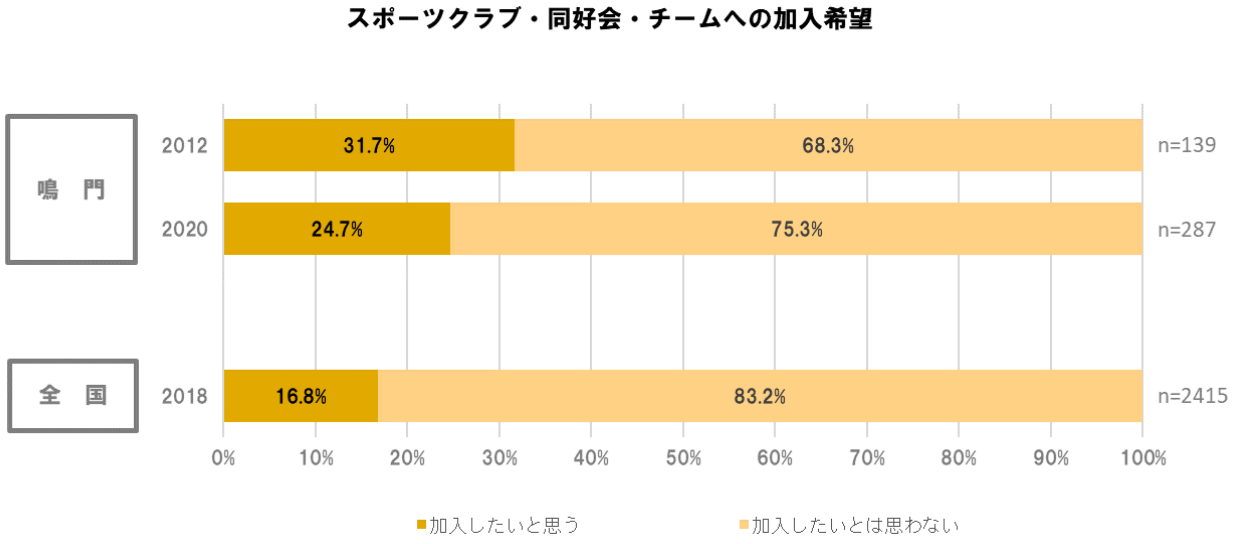
順位	種目	割合	n
1	ウォーキング	27.9%	421
2	散歩（ぶらぶら歩き）	27.7%	418
3	ヨーガ	23.7%	358
4	体操（軽い体操・ラジオ体操など）	21.9%	330
5	筋力トレーニング	15.8%	239
6	水泳	14.4%	217
7	ハイキング	9.3%	141
8	卓球	8.6%	130
9	バドミントン	8.3%	126
10	ボウリング	8.2%	124

③ スポーツクラブ・同好会・チーム

スポーツクラブや同好会、チームへの加入状況をみると、前回調査時の加入割合（21.7%）よりも数字を下げ（16.6%）、全国調査における加入割合（18.5%）を下回る結果となっています。

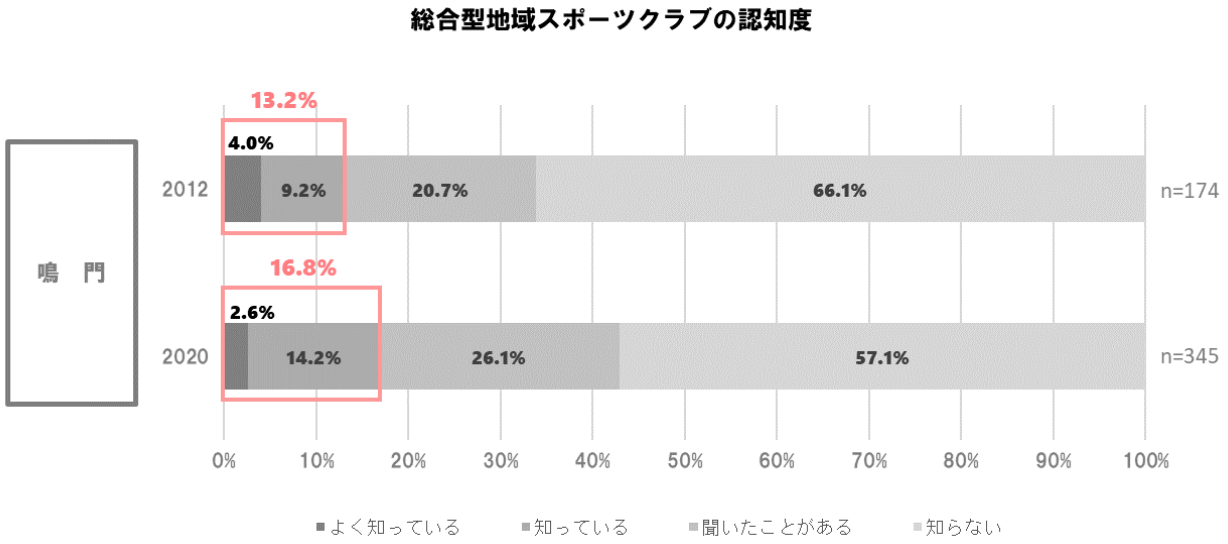


現在、スポーツクラブや同好会、チームに加入していない方の今後の加入希望をみると、前回調査時の加入を希望する割合（31.7%）より数字を下げましたが（24.7%）、全国調査の結果（16.8%）より高い割合を保っています。



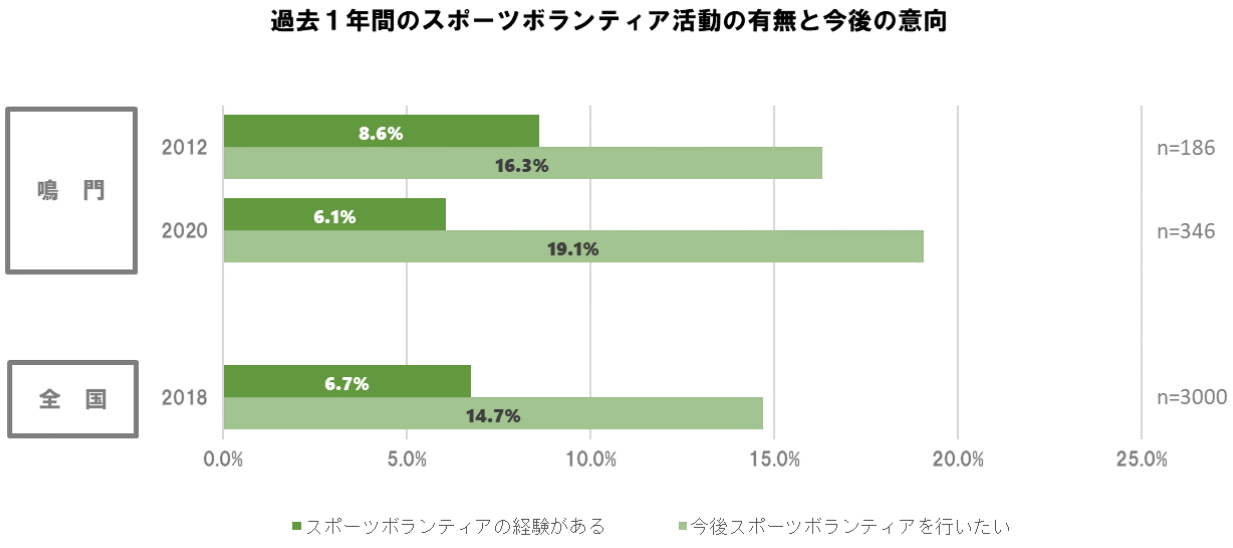
④ 総合型地域スポーツクラブの認知度

総合型地域スポーツクラブの認知度（「よく知っている」と「知っている」の合計）をみると、前回調査時の割合（13.2%）よりも高くなっています（16.8%）。クラブの存在が徐々に浸透してきていると考えられますが、計画の目標である 30%を達成することはできませんでした。



⑤ スポーツボランティア

過去１年間にスポーツボランティア活動を行った経験がある人の割合は、前回の調査結果（8.6%）より数字を下げ（6.1%）、全国調査の結果（6.7%）も下回っています。反対に、「今後スポーツボランティアを行いたい」と答えた人の割合は、前回調査の結果（16.3%）より高くなっています（19.1%）。

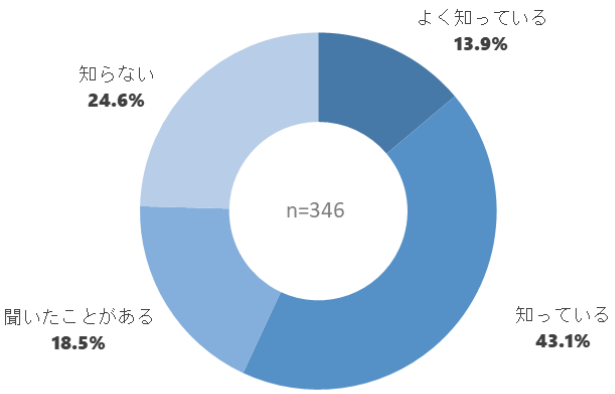


⑥ ゴールデン・スポーツイヤーズ

日本で「ラグビーワールドカップ 2019」「東京 2020 オリンピック・パラリンピック」「ワールドマスターズゲームズ 2021 関西」と、大規模な国際スポーツ大会が連続して開催されることから、これらを総称して「ゴールデン・スポーツイヤーズ」と呼ばれています。

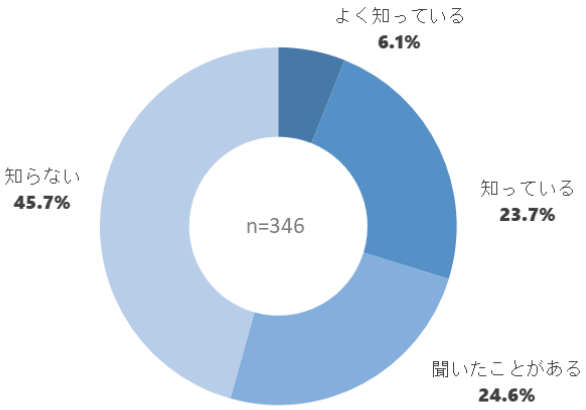
ラグビーワールドカップ 2019 におけるジョージア代表の事前キャンプが鳴門で行われたことについての認知度（「よく知っている」と「知っている」の合計）は 57.0%と過半数に上っています。

ラグビーワールドカップ2019 ジョージア代表事前キャンプの認知度

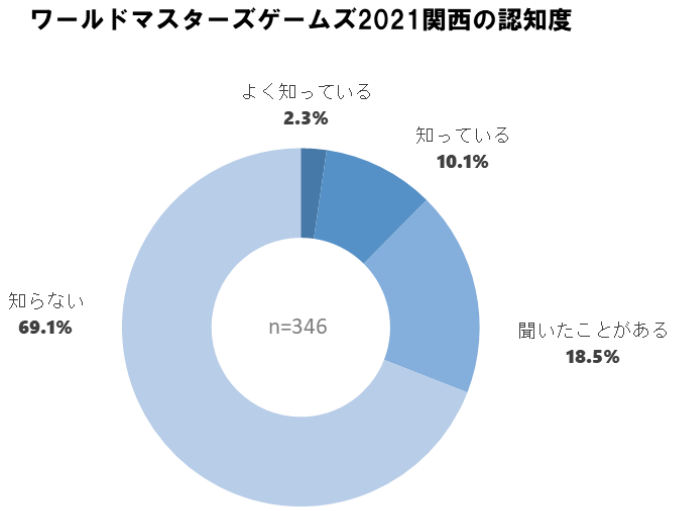


一方で、東京 2020 オリンピック・パラリンピックドイツ代表事前キャンプについての認知度（「よく知っている」と「知っている」の合計）は 29.8%となっています。ただし、ラグビーワールドカップ 2019 ジョージア代表の事前キャンプはすでに実施済みであり、チームの滞在中には多くの報道がなされたことも影響していると考えられます。

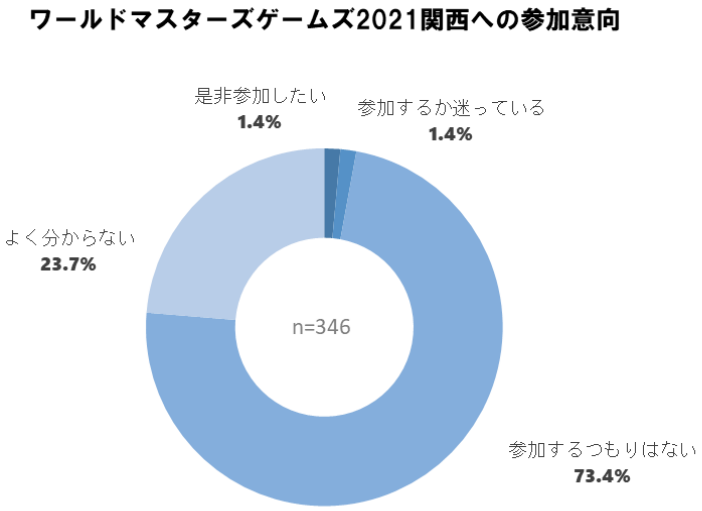
東京2020オリンピック・パラリンピック ドイツ代表事前キャンプの認知度



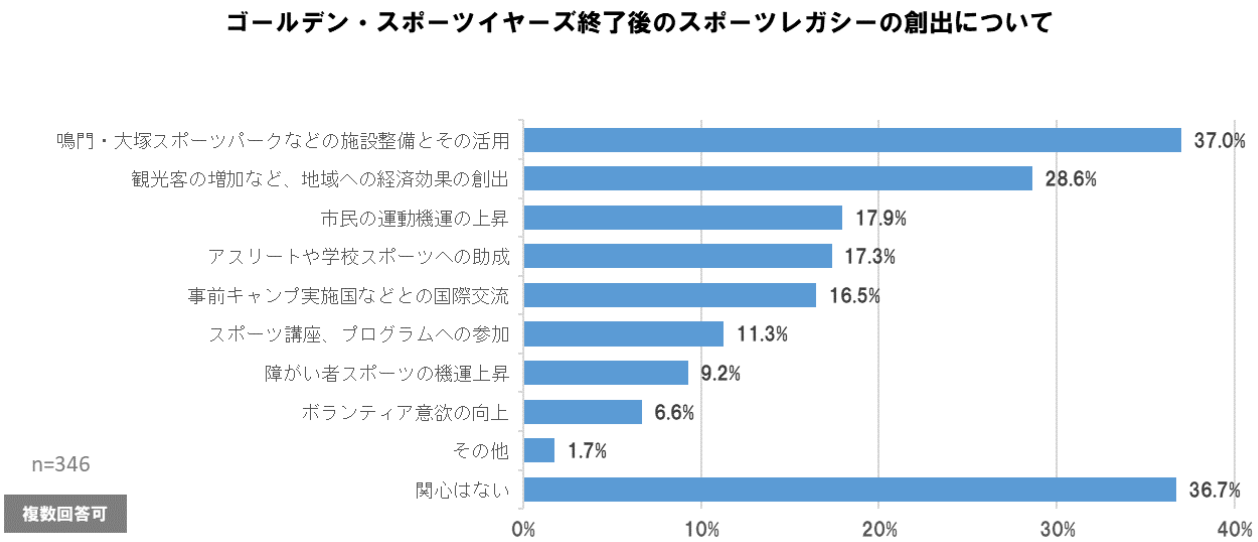
ワールドマスターズゲームズ 2021 関西の認知度（「よく知っている」と「知っている」の合計）は 12.4%で、8 人に 1 人程度にしか知られていない状況となっており、大会開催が十分に周知されているとは言い難い結果となっています。



ワールドマスターズゲームズ 2021 関西に参加の意向を示しているのは 1.4%となっています。大会開催の周知が進まなければ参加意欲の向上は望めません。

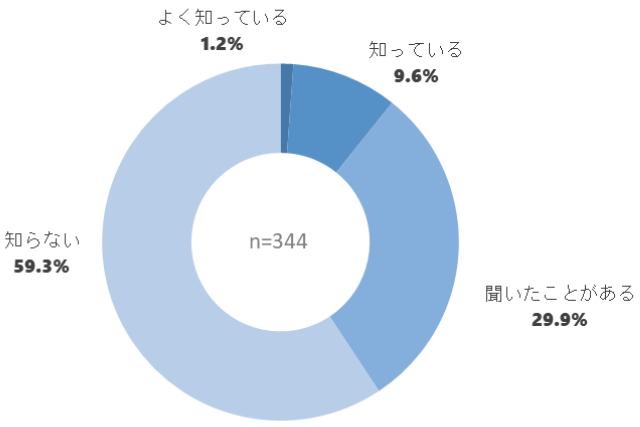


ゴールデン・スポーツイヤーズ終了後のスポーツレガシーの創出について関心のあることについて、最も多かったのが「鳴門・大塚スポーツパークなどの施設整備とその活用」、次いで「観光客の増加など、地域への経済効果の創出」です。同時に、3 人に 1 人程度（36.7%）はスポーツレガシーの創出について「関心はない」という結果となっています。

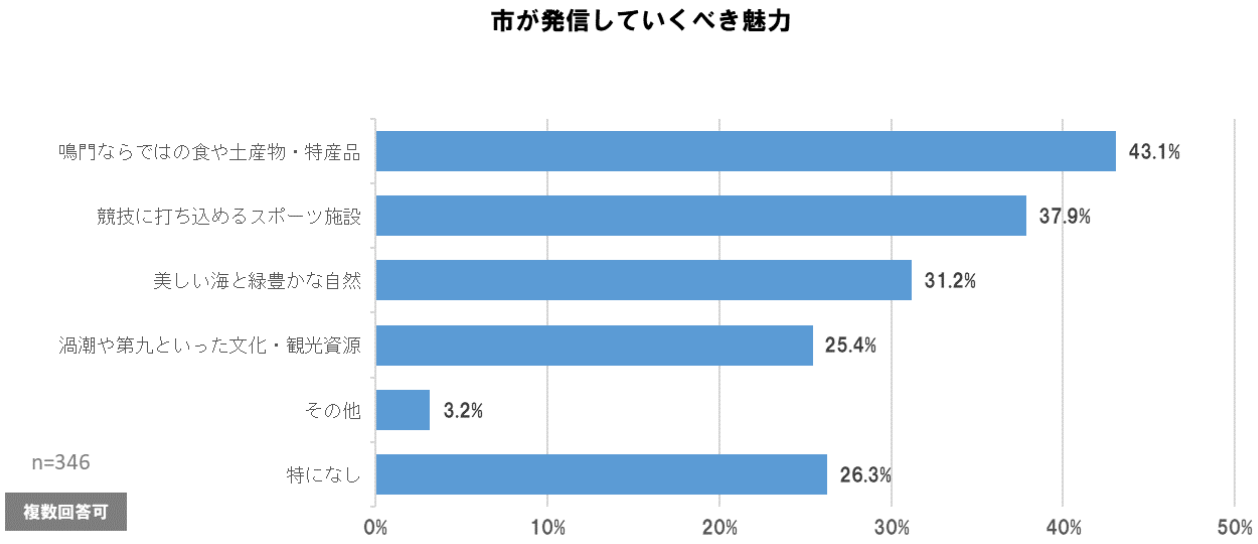


⑦ スポーツを通じた地域活性化

市がスポーツを産業と捉え、スポーツを通じた地域活性化に取り組んでいることについての認知度（「よく知っている」と「知っている」の合計）は 10.8%でしたが、「聞いたことがある」と答えた人を含めると、40.7%の市民がこの取り組みについて見聞きしたことがあるという結果となっています。

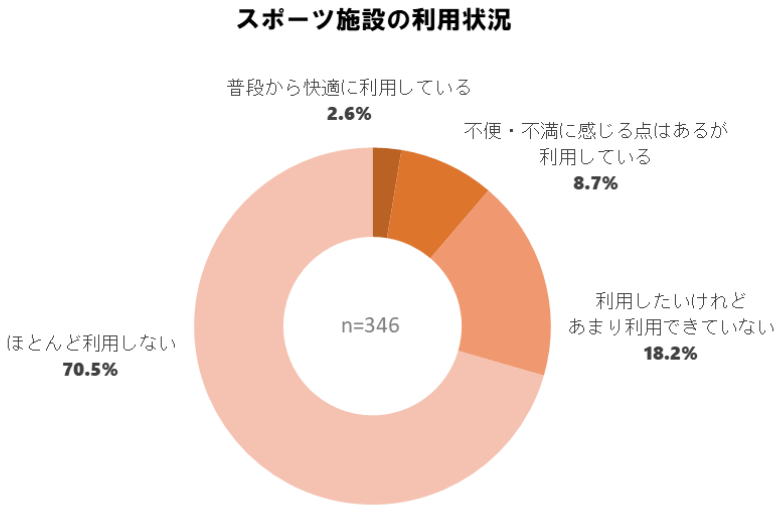


スポーツツーリズムや大会・合宿誘致を実現する上で市が発信していくべき魅力については、「鳴門ならではの食や土産物・特産品」が最も多く、「競技に打ち込めるスポーツ施設」よりも上位となっています。



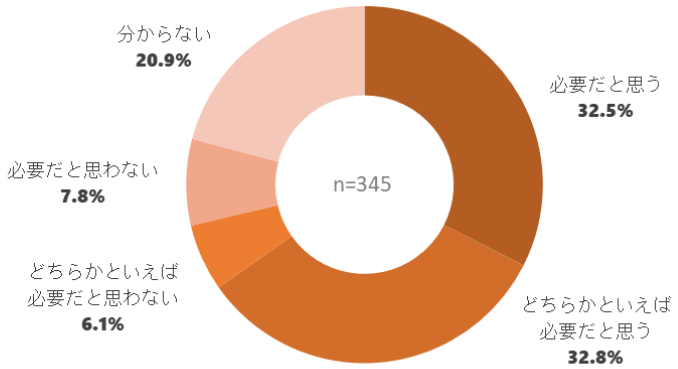
⑧ スポーツ施設の整備

市のスポーツ施設については、70.5%の市民が「ほとんど利用しない」と答えています。



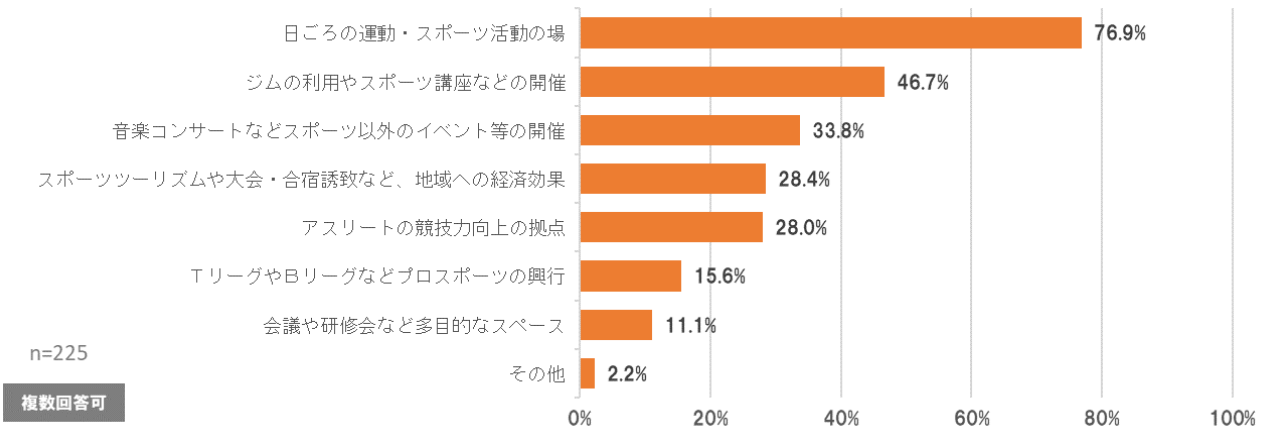
新しいスポーツ施設が必要（「必要だと思う」と「どちらかといえば必要だと思う」の合計）という割合は65.3%となっており、新しいスポーツ施設は不要（「必要だと思わない」と「どちらかといえば必要だと思わない」の合計）という割合（13.9%）を大きく上回っています。

新しいスポーツ施設の必要性



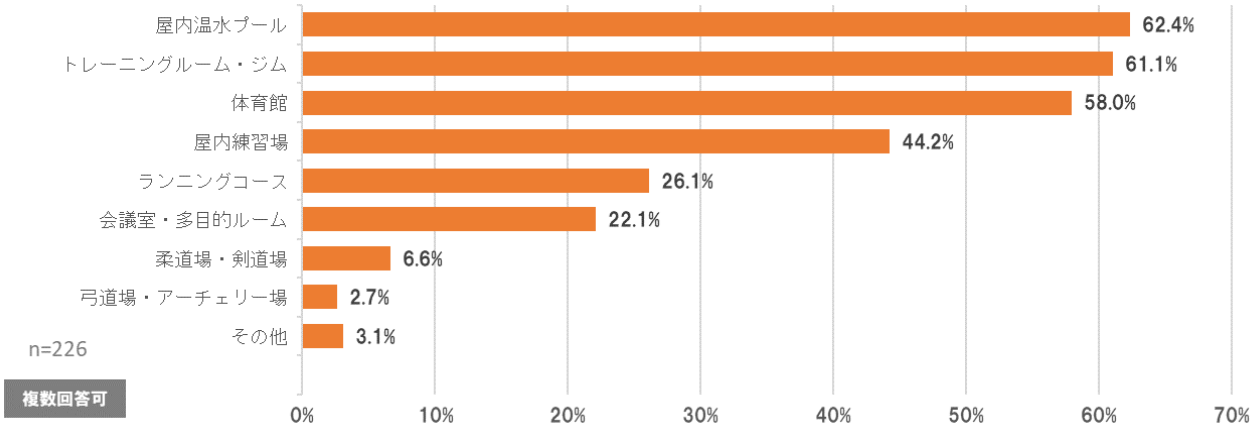
新しいスポーツ施設を整備する場合、施設に望む役割として特に重要視することは、「日ごろの運動・スポーツ活動の場」が最も多く、次いで「ジムの利用やスポーツ講座などの開催」となっており、自身の普段の運動・スポーツ活動に関わる役割が多く望まれています。

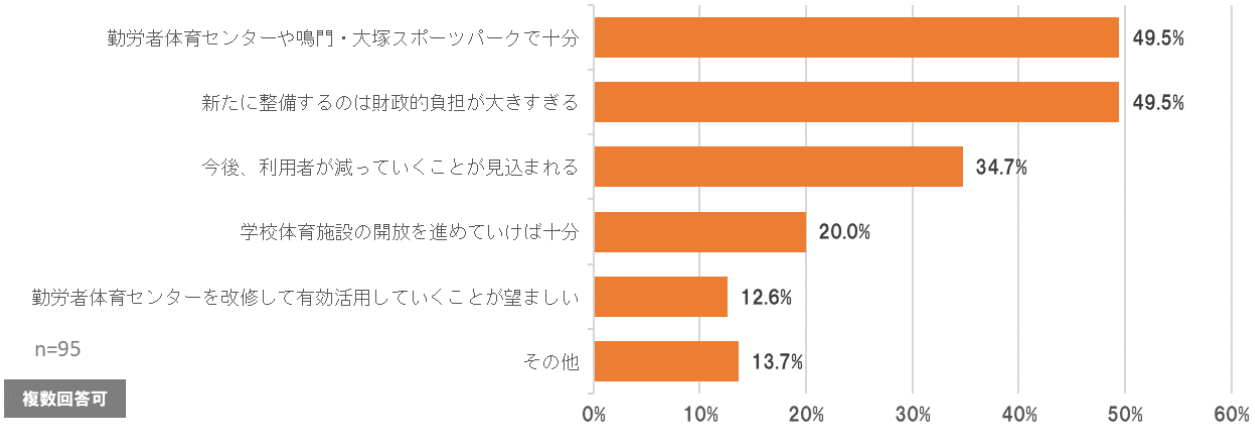
新しいスポーツ施設に望む役割



新しいスポーツ施設を整備する場合に必要な設備としては、「屋内温水プール」が最も多く、次いで「トレーニング・ジム」「体育館」という結果となっています。

新しいスポーツ施設に必要な設備



新しいスポーツ施設を「必要だと思わない」理由について、「勤労者体育センターや鳴門・大塚スポーツパークで十分」「新たに整備するのは財政的負担が大きすぎる」という意見が最も多くなっています。

新しいスポーツ施設が不要である理由